

**立教大学学術推進特別重点資金（立教 S F R）**  
**大学院生研究**  
**2013年度研究成果報告書**

<b>研究科名</b>	立教大学大学院	観光学	研究科	観光学	専攻
<b>研究代表者</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
	観光学研究科観光学専攻3年次		李彰美 印		
<b>指導教員</b>	所属・職名		氏名		
	観光学部・教授		橋本 俊哉 印		
<b>自然・人文・社会の別</b>	自然	・	人文	・	<input type="checkbox"/> 社会
<b>個人・共同の別</b>			<input type="checkbox"/> 個人	・	共同 名
<b>研究課題名</b>	韓国ヘルスツーリズムにおける健康・美容に関する認識 －健康・美容関連行動の歴史的考察を中心として－				
<b>研究組織</b>	在籍研究科・専攻・学年		氏名		
<b>研究期間</b>	2013		年度		
<b>研究経費</b>	(支出金額)	198 千円	/	(採択金額)	200 千円

**研究の概要** (200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。)

韓国のヘルスツーリズムは、温泉に代表される日本のものとは異なり、医療・韓方・美容などと連携した医療・治療型が中心となっており、その具体的な展開内容が特徴的であると言える。このような韓国のヘルスツーリズムの展開は、韓国社会が持っている歴史的・文化的背景によるところが大きいことが認められる。

そこで、本研究は韓国社会が持っている歴史的・文化的背景をたどり、韓国のヘルスツーリズムにおいて、健康・美容に関する伝統的認識が現在の健康・美容認識にいかに関与を与え、それがヘルスツーリズムにいかに関与されているかを明らかにすることで、ヘルスツーリズムにおける観光動機を社会心理学的視点から説明しようとするものである。

**キーワード** (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[ヘルスツーリズム] [健康・美容認識] [健康・美容関連行動]

**研究成果の概要** (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究は、韓国のヘルスツーリズムにおいて、健康・美容に関する伝統的認識が現在の健康・美容認識にいかに関与を与え、それがヘルスツーリズムにどのように反映されているかを明らかにすることを目的としている。その具体的な成果は以下の通りである。

第一に、ヘルスツーリズムにおける健康要素と美容要素の位置づけを明らかにした。ヘルスツーリズムにおける健康要素と美容要素の活用を把握するため、健康と旅行のかかわりを歴史的にとらえるとともに、ヘルスツーリズムの現状における健康・美容要素の取り組みを考察した。その結果、洋の東西を問わず、古くから温泉の利用がみられ、治療のための旅行が行われていた。ヘルスツーリズムにどのような健康・美容要素が取り入れられているかは、国によって異なるものの、健康・美容要素はいずれもヘルスツーリズムを構成する重要な要素であることが認められ、観光行動において健康・美容要素がどのように位置づけられているかが把握された。観光行動を生起させる心理的原動力として観光動機があり、観光動機は「信念」と「欲求」から構成される。特に信念は、欲求と比べて態度の変容により大きな影響を与える重要な動機であり、経験と知覚によって形成される。観光動機の重要な要素である信念をヘルスツーリズムの観光動機に適用してみると、ヘルスツーリズムにおいては健康・美容に関する信念が重要な観光動機といえる。また、健康・美容に関する信念は歴史的にみられる思想や文化に影響されていることがうかがえる。つまり、健康・美容に関する信念を歴史的視点から考察する必要があることが確認された。

第二に、ヘルスツーリズムと健康・美容意識との関係について多角的に考察した。まず、西洋と東洋における健康・美容関連史を概観した。東洋では、原因結果論を重視する西洋とは異なって、全体部分論をもとに全体の秩序と均衡をとることで健康が維持できると考えられていた。西洋の場合、心身二元論にもとづいた機械論的健康観は、20世紀ごろから健康の社会的側面も重視するようになり、総体的健康観に変わったのに対し、東洋では、一貫して心身一元論にもとづいた有機論的健康観を持っていた。美容において、古今東西を問わず、古代の化粧や装いなどの美容行為は呪術的かつ迷信的意味を持っており、外部の刺激から身を守り、寒さや暑さなどの気候的環境から体を保護するものであった。西洋の場合、健康によい均整美と、健康を考慮していない偽りの美が共存した。美容を医学の対象として扱い、化粧や薬剤処方、魔術の混在する美容法が20世紀にいたるまで継承されていたものの、現在は健康を考慮した美を追求している。東洋の場合、絶対的な中心的役割を果たしていたのは中国であり、陰陽五行思想にもとづいた色彩を使用するとともに、儒教にもとづいた内的な美が求められた。このように、健康と美容は、そのはじまりが身体保護や健康維持であり、現在においても健康を考慮した美容が重視されていることから、健康と美容が深くかかわっていることが認められた。

第三に、日韓のヘルスツーリズムの関係者への聞き取り調査と関連パンフレットの内容の比較分析によって、韓国のヘルスツーリズムにおける健康・美容関連行動の特徴を明らかにした。韓国のヘルスツーリズムにみられる健康・美容関連行動の特徴として以下の3点を挙げるができる。第一は、韓方医療が多くみられる点である。治療分野と美容分野の双方において、伝統医療である韓方の活用が目立つ。韓方治療はもちろん、美容施術においても、針や薬剤などを用いたダイエット、マッサージ、スキンケアから韓方美容整形まで、多様な韓方美容施術が行われている。第二は、小規模の個人病院や一般美容施設の活用が多くみられる点である。医療において、大学病院のみならず、小規模の個人病院での治療・施術が多くみられる。また、美容において、ホテルや観光施設に付属している美容施設だけではなく、チムジルバン(韓国式銭湯)、汗蒸幕(韓国式サウナ)、アカスリなど、日常生活の中での美容施設の活用が多い。第三は、美容分野においてより多様な医療技術が活用されている点である。具体的には、美容整形外科、皮膚科、歯科などの専門的医療が美容関連行動に用いられている。

**研究成果の概要 つづき**

第四に、史料、新聞、文献の分析によって韓国の健康・美容に関する行動を歴史的に考察した。古代・中世と近世は韓国の三大正史である『三国史記』、『高麗史』、『朝鮮王朝実録』を中心とし、『三国遺史』や歳時記、風俗画などの関連史料も参考にしながら分析を行った。近代については、既存研究と当時の新聞を用いることで、健康・美容関連行動に関する諸事象を考察した。健康関連行動において、古くから本草学が比較的重視されており、中国から伝来した漢方をもとに韓国固有の韓方が生まれ、韓方が広く普及していた。韓方は薬膳および補薬をはじめ、沐浴、治療まで多様な形で用いられていた。また、美容関連行動において、古くから韓国独特の霊肉一致思想が広がっており、内面の美と外面の美を同視する考え方が生まれた。霊肉一致思想による美容へのこだわりは化粧や服飾などに多くみられる。

第五に、社会心理学的視点から韓国における健康・美容に関する伝統的認識や、現代における健康・美容認識、ヘルスツーリズムにみられる健康・美容認識を明らかにした。なお、これらの分析は健康信念理論を手がかりとする。まず、韓国の健康・美容関連行動の歴史的な事象にみられる伝統的な健康・美容認識を分析した。その結果、健康関連行動において、迷信的医療が広まっていた時代から韓方への信頼が強く、治療効果への期待が高いとともに、日常生活での養生が一般化されており、健康信念理論でいうところの「主観的疾患重度(病気の結果をどの程度深刻に受けとめているかという重篤性の認知)」と「主観的利得(ある行動をすれば、どの程度の予防効果や改善効果が期待できるかという個人の認識)」が高いことがうかがえた。美容関連行動において、当時の女性は美への強い欲求や期待を持っており、美に怠慢な態度はすぐ醜い容貌につながると考えており、「主観的罹患可能性(自分がその病気にかかりやすいと思うかどうかという個人の病気への感受性の認知)」と「主観的利得」が強いと判断された。

次に、現代における韓国の健康・美容認識の分析においては、日韓大学生を対象としたアンケート調査を実施し、韓国の特徴を浮き彫りにした。その結果、健康認識において、韓国の場合は日本に比べて「主観的疾患重度」と「主観的利得」が強く、健康行動を実践しやすい健康信念を持っていた。美容認識において、韓国の場合は日本に比べ、「主観的罹患可能性」と「主観的利得」が強く、実際の美容行動に移りやすい美容信念を持っていた。

最後に、韓国のヘルスツーリズムにみられる健康・美容認識の分析においては、パンフレット分析と聞き取り調査を通して日韓のヘルスツアラーにおける健康・美容認識を比較分析することで、韓国の特徴を浮き彫りにした。韓国では、病気のかかりやすさが強調され、「主観的罹患可能性」がみられるとともに、早期発見の完治率がアピールされており、末期癌などの危険が強調され、「主観的疾患重度」がみられる。また、病気治療における医療技術のアピールや健康診断の予防効果などといった健康関連行動のメリットと、韓方の美容効果の優秀性や韓国式サウナ・エステによる美肌効果がアピールされており、「主観的利得」が強い。韓国のヘルスツーリズムには韓方の積極的活用による韓方への信頼と、医療や関連施設を多様な形態で美容へ活用しているなど、美容へのこだわりがみられる。このように、朝鮮時代に確立された韓国人の韓方への強い信頼は、現代の韓国人の健康信念に反映されており、健康信念の中でも「主観的疾患重度」と「主観的利得」に強い影響を与えている。新羅時代から近代まで存続した霊肉一致思想による美へのこだわりは現在の健康・美容信念にみられる「主観的罹患可能性」と「主観的利得」に反映されている。現代における「主観的疾患重度」と「主観的利得」はヘルスツーリズムの健康関連行動に、「主観的罹患可能性」と「主観的利得」はヘルスツーリズムの美容関連行動により強い影響を与えている。韓国のヘルスツーリズムにみられる可視的な健康・美容効果に対する期待や、「主観的利得」と「主観的疾患重度」などの健康・美容認識の根底には、韓方への強い信頼と霊肉一致思想があることが明らかになった。

※この(様式2)に記入の成果の公表を見合わせる必要がある場合は、その理由及び差し控え期間等を記入した調書(A4縦型横書き1枚・自由様式)を添付すること。

**研究発表** (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)